

令和4年全国学力・学習状況調査(2022.4.19)の結果からみた

国語・数学・理科の力と学習や生活の状況

◎は良いところ ▲は伸ばしたいところ

【国語について】

◎学習指導要領の内容の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で、全国平均を上回っています。

◎問題1一や問題2一のような、スピーチの一部を適切な形に書き直したり、言葉の働きについて理解し目的に応じて使用したりすることに対して高い正答率を示しています。また、問題3四のような、登場人物の心情を物語の展開と結びつけて読み取ることがよくできています。このことから、本校生徒が、相手の興味・関心を考慮して表現を工夫する力や、小説の場面と場面、場面と描写などを結びつけて、話の内容を解釈する力がついていることがわかります。

▲問題2三のような、「書くこと」の領域に課題があります。資料をもとに、根拠を明確にして自分の考えを記述する力が不十分なようです。今後も、条件に沿って資料から必要な情報を引用し、根拠をもとに自分の考えを書く活動を継続していきます。

▲問題4一のような、「我が国の言語文化に関する事項」の行書の特徴を理解することに課題があります。タブレットの活用に伴い、生活の中で文字を書く機会が減少しつつあります。行書の特徴の理解を深めるために、授業や生活の中で文字を書く機会をより多く設けていきます。

【数学について】

◎「数と式」、「関数」の2つの領域では、全国平均を上回っています。特に「数と式」が全国平均を大きく上回っています。

◎2つの偶数の和が4の倍数になる場合を考察する3つの問題において、全国平均と県平均を上回っています。特に、差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成させる問題では、全国平均を大きく上回っています。文字を使って、数を一般的に表し、考える力がついています。また、説明の結果を踏まえ、新たな事柄を見いだす力が、全国平均と県平均を上回っています。

◎連立方程式を解く問題において正答率が高く、全国平均を大きく上回っています。計算力がついています。

◎箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりについて正しく述べてものを選ぶ問題において、県平均と並び、全国平均を上回っています。

▲素因数分解をする問題において課題があるようです。1年生の学習内容である「素因数分解」を3年生の4月に復習できるように対策を取ります。

▲容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ問題において課題があるようです。1年生の学習内容である相対度数から見いだす確率についての復習ができるように対策を取ります。

▲コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する問題において課題があるようです。ヒストグラムを読み取る際の数学的な表現についての復習ができるように対策を取ります。

▲証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題において課題があるようです。三角形の合同条件を生徒全員が正しく書けるように再度指導します。

▲ $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成させる問題において課題があるようです。読解力と筋道を立てて考え、説明する力を育む授業を徹底します。

【理科について】

◎「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」を柱とする全ての領域で、正答率が全国平均を上回っています。

◎タッチパネルの操作によって、静電気を帯びる現象を確かめる問題は、高い正答率でした。異なる物質同士をこすり合わせると静電気が生じるということ、タッチパネルの反応など身近な事象と関連づけさせる力が身についています。

クモが昆虫であるか、根拠をもとに解答する問題では、全国平均を大きく上回っています。昆虫を分類する観点や基準がおおむね身についています。

▲重力とつり合う力を答える問題に課題があります。力のつり合いの条件や、垂直抗力の理解が不十分なようです。力の世界の学習では、力を矢印を使って表す方法や、力のつり合いの条件をきちんと理解し、作図などを繰り返し行いながら定着をはかっていきます。

▲水素を燃料として使うしくみの問題では、水素を使い続けるために必要なものを答える問題に課題があります。水の電気分解を理解していても、それに必要な電気エネルギーをつくるためのしくみを図から読み取ることができなかつたと考えられます。発電のしくみと関連させて学習を行っていきます。

【学習や生活について】

◎「学校に行くのは楽しいですか」という質問に対し、ほとんどの生徒が肯定的に答えています。友達と協力することや、意見を交わすことについても肯定的な考えを持つ生徒が多く、有意義な学校生活を送ることができているようです。ただし、反対の思いを持つ生徒が少数いるのも事実なので、それを見過ごすことなく、生徒みんなが気持ち良く校生活を送ることができるよう取り組んでいきます。

▲家庭学習について「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という回答や、平日の家庭学習の時間の質問で「3時間以上勉強している」と回答した生徒が少数にとどまっています。これから受験期を迎えますので、自らが向上心を持って計画的に学習に取り組めるよう、個に応じたアドバイスを行っていきます。

◎「授業でPCやタブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対し、「ほぼ毎日」や「週3回以上」が、県や全国の平均を大きく上回っています。生徒からも活用方法に関する主体的な意見や要望が出てきており、授業だけでなく、生徒会活動や部活動などでも積極的に活用しています。ICTは良い環境が整っているので、これからも学校生活における様々な場面で活用できる機会を提供していきます。

◎自分用のスマートフォンやゲーム機の保有率は高いのですが、平日に動画視聴やゲームなどを長時間行っている生徒は県内や全国の平均より少なく、平日は全くしないと答えている生徒もいて、家庭での約束がおおむね守られています。

▲ただし、平日に「3時間以上行っている」と答えた生徒がいたり、家庭において「約束がない」という生徒がいたりします。家庭でもスマートフォンやゲーム機等の使用について話し合っただくとともに、学校においてもより良い使用方法について考える機会を設定します。

▲「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対し「当てはまる」と答えた生徒や、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して「当てはまる」と答えた生徒が少ない傾向にあります。また、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問にも「当てはまる」という回答が少ない傾向となっています。これらの結果を踏まえ、県が推奨する“子ども自身がその個性に気づき伸ばしていけるような「引き出す教育」”や“学びを自ら進んで「楽しむ教育」”の実践研究を深め、さらには学習や学校生活全体における評価や指導、生徒とのコミュニケーションのあり方などについても見直しを図ります。